



記入日 2017年1月6日

1. 概要

実践団体名	気仙沼市立気仙沼小学校		
連絡先	気仙沼小学校 0226-22-6966		
プランタイトル	つなげよう防災，気仙沼小学校防災隊！！		
プランの対象者※1	小学校低学年，小学校 高学年，保護者・ PTA	対象とする 災害種別※2	津波，地震など様々な自然災害

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

児童一人一人がもつ防災知識を活用し、自ら命を守る行動ができるようにすることを目的とした防災教育の実践を目的としている。それらの実践を生かした中で、保護者にも協力をもらいながら児童のみならず保護者の防災意識を高めていくことをねらっている。

【プランの概要】

- ・年2回の集団下校訓練や地震・津波対応訓練，災害時の保護者への引き渡し訓練
- ・防災教室，防災タイムの実施 ※宮城鎮魂の日（3月11日）についての話し合い
- ・各教科，領域の授業における防災副読本「未来の絆」を活用した授業実践

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・さまざまな場面に対応した素早い行動が身に付くなど，防災知識や防災意識の向上につながる。
- ・総合的な学習の中で行われた防災マップづくりに，自治会長はじめ市の危機管理課職員，防災アドバイザーなど外部講師の方々の協力が得られ，今後のつながりも密に。

2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	集団下校訓練 防災クラブの設置	地区毎の人数把握と地区内の実地踏査	6年生をリーダーとして下校訓練を行った。スクールガードボランティアの方の協力もいただき、危険箇所を確認しながら下校することができた。
5 月	地震・津波を想定した避難訓練	学校内の避難経路や各係の確認、防災タイムを使っての避難の仕方を学習。	避難の時の約束「おはしも」を確認していたので、子ども達は素早く避難を行うことができた。また、新しくなった職員間の係分担や動きを確認した。
6 月	不審者対応避難訓練	気仙沼警察署生活安全課の方との事前打ち合わせ	職員の不審者への対応の仕方や子ども達が不審者に遭遇した場合の身を守る方法について学ぶことができた。
7 月		災害時の保護者への引き渡し訓練事前確認書を配布	
8 月	災害時の保護者への引き渡し訓練	事前確認書をもとに、体育館での引き渡しの仕方について確認を行う。	事前にシュミレーションを行ったことにより、職員間の動きがよく分かり、連携がうまくいった。また、中学校の防災主任にも参加していただいたことはよかったと思う。
9 月	防災マップを作ろう 防災教室	・滝の入2区自治会長、防災アドバイザーとの打合せ ・防災教室の準備	・綿密な打合せを行ったり、活動に実際に参加していただいたりしたことで防災学習に体する子ども達の意識が高めることができた。
10 月	防災マップを作ろう	まち歩きのための実地踏査	5人の自治会長の協力を得ることができ、防災マップを作るための有意義なまち歩きを行うことができた。
11 月	火災を想定した避難訓練	気仙沼消防署古町出張所の方との打合せ	煙体験など子ども達にとって有意義な活動を行うことができた。
12 月	道徳「臨時船ひまわり号」の授業		災害に立ち向かおうとする地域の方々の思いに触れることで、防災意識を高めることができた。自助はもとより、共助について考えるよい機会となった。
1 月	公開研究会シンポジウム	事前打ち合わせ 総合的な学習の時間への参加、協力	「防災教育をアクティブにする地域連携」についての提案や話し合いを行う予定。

2月			
3月	宮城鎮魂の日について 気仙沼市合同慰霊祭参加		4年生の防災学習のまとめとして気仙沼市合同慰霊祭の献唱に参加し、子ども達の学習のまとめ、そして、今後も災害について考え、復興のためにできることに取り組んでいこうという気持ちを込めて、献唱を行う予定。

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	平成28・29・30年度 宮城県教育委員会・気仙沼市教育委員会指定「学力向上研究指定校事業」シンポジウム
実施月日（曜日）	1月30日（月）
実施場所	気仙沼小学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：地域住民 氏 名：白井 弘氏 所属・役職等：気仙沼市自主防災組織連絡協議会 会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	120分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・シンポジウム
活動目的※5	その他（教職員の防災知識の向上や意識を高める）
達成目標	「深い学び」につながるアクティブラーニングとは
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・防災教育をアクティブにする地域連携についての話題提供や提案、 参加者との意見交換や話し合い
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・気仙沼市自主防災組織連絡協議会 会長
参加人数	約200名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼 10,000円
成果と課題	【成果】 ・気仙沼市自主防災組織で取り組んでいる活動を知り、参加者（教職員）の防災に対する心構え、防災知識の向上や意識の高まりにつながると思われる。 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	やってみよう！サバイバルライフ！
実施月日（曜日）	9月8日（木）
実施場所	家庭科室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担任 氏 名：小野寺由佳 所属・役職等：気仙沼小学校 第4学年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	遊び・楽しみならの防災
達成目標	身近なもので防災グッズ作りを行いながら、災害時に必要な物は何かを考え、防災への備えの準備を行う。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ファスナー付きビニール袋を使ってご飯を炊く。 ・湯飲み茶碗を使っての米の計量。 ・鍋にファスナー付きビニール袋を入れ、沸騰させる。30分程度でご飯が炊くことができる。 ・できたご飯をおにぎりにして食べる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ファスナー付きビニール袋，米，塩
参加人数	27名
経費の総額・内訳概要	無
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズの中に準備しておくとう便利だということに気付く。 ・簡単にご飯を炊くことができ、災害の時に自分たちでもできることがあると実感することができた。 ・いつもとは違った状態で作ったご飯だけに、何気なくいつも食べているご飯のおいしさ、ありがたさを感じることができた。 <p>【課題】</p>
成果物	子ども達の防災に対する心構えややる気が育ったこと。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	防災マップを作ろう
実施月日（曜日）	9月2日（金）から1月30日（月）
実施場所	気仙沼小学校，気仙沼小学校学区内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：地域住民，防災関係者 氏 名：臼井弘氏，栗原誠氏 所 属 ・ 役 職 等： 滝 の 入 2 区 自 治 会 長 ， NPO「SEEDS Asia」
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分間×10時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	防災意識を高め，自分たちにできる防災について追究しようとしている。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを作成するにあたり，学区内にある滝の入2区の土砂災害を想定した防災マップ作りについての話を聞く。 ・どのように防災マップを作成していくのか手順を知る。 ・防災アドバイザーから気を付けて見てくる必要があるかポイントを教えてもらう。 ・滝の入2区のまち歩きを行う。 ・学区内のまち歩きを行い，防災マップを作成する。 ・作成した防災マップの活用，発信を考える。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災マップを作成の手順のプリント 滝の入2区自治会長，防災アドバイザー，滝の入2区住民（11名） 幸町，南郷，南町，三日町，館山地区の自治会長
参加人数	54名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼（3,000円×3） グループの考えを発表用ホワイトボード（15,200円×2） ホワイトボード用マーカー（600円）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な命を守るために防災マップは必要ということを学ぶことができた。 ・滝の入2区を实际歩くことにより，どんな場所が危険で防災マップに必要なことなのかを知ることができた。 ・滝の入2区のみなさんとの交流がうまれた。 ・作成した防災マップをさらに活用し，それを発信する方法を考えることができ，5年生への活動の意欲付けができた。また，今後自分達がどのようなことに取り組んでいく必要があるのかに気付くことができた。 <p>【課題】</p>



	<ul style="list-style-type: none">・集めた情報の整理の仕方。4年生という実態からもどの程度まとめにすべきかが課題となった。
成果物	防災マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科，領域を踏まえた実践計画を立てることに苦勞をした。本校独自の 動の業前活動の防災タイムの内容の見直しや教科や道徳，特別活動の内容を 見直し，子ども達の防災知識や意識を向上させることができるように工夫を 行った。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との交渉や事前の打ち合わせの時間の確保に苦勞をする。 ・活動内容に適した人材，団体を見つけたり，確保したりすることが難しい と感じた。 ・学区内の自治会長さん方とのつながりから有意義な活動を子ども達が行う ことができるようにした。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ作成では，4年生の段階での防災マップの完成度という点で苦 勞し，防災アドバイザーの方からのアドバイスを何度も受けた。 ・学年の実態に応じた防災知識を身に付けさせるための教材開発に苦勞をす る。宮城県の防災副読本「未来への絆」，気仙沼市で作成した「」を参考に 教材開発を行ったこと。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織		
保護者・ PTAの組織	4 学年保護者	まち歩き活動見守りボ ランティア
地域組織	気仙沼市自主防災組織 自治会長 臨時船ひまわり 船長菅原進氏	まち歩き際に避難経路 の確認や子どもの質問 や疑問に答えてもらう 道徳の授業
国・地方公共団体・ 公共施設	気仙沼市危機管理課 気仙沼警察署生活安全課 気仙沼消防署古町出張所	防災マップ作成のため に拡大地図作成 不審者対応避難訓練時 火災想定避難訓練時
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO「SEEDS Asia」	防災マップ作成、防災教 室
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携した防災学習がスタートしたことが大きな成果である。 ・学習したことを家庭でも生かしたり、一緒に防災について話し合ったりすることができ、学校と家庭とが同じ歩調で防災について考える機会を設けることができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の実態に応じた学習や活動を展開することにより、子ども達一人一人に防災知識が身に付き始めている。地域の方々の災害に立ち向かおうとする思いに触れることで、さらに防災意識の高まりが感じられた。自助、共助についてしっかりと考えることができた。 ・震災から6年が経過しようとしている。震災当時の記憶が曖昧な子ども達でもあるので、災害に対する正しい知識を身に付けさせ、正しい判断をし、いざという時に役に立つ人材として育てていくことが今後の課題になると思う。また、震災当時の教員も少なくなり、また、震災を経験していない若い教員達との温度差を感じる今日この頃、震災の経験を語り継ぐ大事な役目を担う子ども達の災害に対する正しい知識、防災意識をしっかりと育成していくことが大切と考える。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災指導計画の見直しと改善 ・地域の方々とのつながりを生かした防災教育。防災マップ作りだけではなく、防災知識や意識を育てるために必要な活動を模索していく予定。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

【地域の方とのつながりを生かした学習】



【防災マップの作り方について自主防災組織連絡協議会 会長 白井弘氏にお話を聞く】



【滝の入2区のまち歩き】



【臨時船ひまわり船長 菅原氏からお話を聞く会】

かつk(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)